

科目名		演技			
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	
				○	
対象学科		声優アクターズ科		対象学年	
				1	
必修・選択		必修		単位時間数	
				32時間	
授業概要、目的、授業の進め方		1. 舞台演技基礎の習得 2. 基礎的な演技メソッドの理解 3. 台詞表現と体表現への取り組み			
学習目標 (到達目標)		台本を読み、場においての動きや伝えたいことの意味、登場人物の役割を理解できること			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		練習用台本を必要に応じてコピーし配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2	舞台演劇基礎1	立ち姿勢		トレーニングの重要性と素立ち 発声の仕方	
3・4	舞台演劇基礎2	反応と表現		目線や仕草に対して無意識下での反応について 呼吸法に対する意識	
5・6	舞台演劇基礎3	台詞について		言葉の意味、伝えたい事を意識してみる 気持ちの持ち方・考え方	
7・8	舞台演劇基礎4	芝居の空間		場面、設定の理解と人物の行動理解	
9・10	舞台演劇基礎5	相手役を考える		自分に向けて話す相手の台詞から自分の役柄を見つける。	
11・12	舞台演劇基礎6	会話劇		二人以上のシーンを演じてみる。 お互いの表現について考える。	
13・14	舞台演劇基礎7	客席との距離		見せ方の工夫。声量について 距離感や想像力について	
15・16	舞台演劇基礎8	ミザンス		立ち位置の取り方について シーンでの見せ方	
17・18	演技発表1		一人5分程度の演技発表会		
19・20	演技実習1		姿勢や発声に必要な体について 基本的なトレーニングのおさらい		
21・22	演技実習2		反射と影響 台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応してみる。		
23・24	演技実習3		伝え方の工夫 声や身体両方をしっかりと使ってみる。 擬音…声、台詞…体表現と日常の音を逆転させてみる。		
25・26	演技実習4		台詞のキャッチボール 二人一組で、古今東西ゲームをテニス形式(エア)で行ってみる。		
27・28	演技実習5		台本を理解し、物語のテーマを考える 演じる世界を理解し、登場人物だからこそ見える世界を感じとり、表現してみる。		
29・30	演技実習6		集団表現 舞台でのアンサンブルを意識し、適切な立ち位置と複数人による台詞のタイミングを考えてみる。		
31・32	演技実習7		自然な演技 オーバーラップや無反応、集団と個人など、打ち合わせの無い状態での集団表現		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解することの大切さも学んでほしいと思います。	
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、舞台演出・舞台監督・演技指導歴16年			

科目名		演技トレーニング			
担当教員		安川 嘉文		実務授業の有無	
対象学科		声優アクターズ科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	単位数	—	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数
授業概要、目的、授業の進め方		1. 役者の仕事を理解し、演技することができる 2. 戯曲を読解し、演技につなぐことができる 3. 役へのアプローチを多角的にできる			
学習目標 (到達目標)		役者とは、演技とは何かを常に追求する頭を獲得し、戯曲やシナリオを役者的観点から読解することができるようになる。多角的な役へのアプローチを実践し、現場で必要とされる演技力を獲得する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		その場に応じて教材・テキストを用意。			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	役者とは・演技とは			役者とは何か、演技とは何かを考察する。演技者の為のイントロダクション	
2	セリフと間			セリフと間を実際に演じてみるエクササイズ	
3	演技で空気をつくる			演技で空気をつくるエクササイズ	
4	戯曲の読み方			役者としての戯曲の読み方・分析	
5	セリフ演技について			セリフ演技についての説明・実践	
6	戯曲への演技アプローチ1			戯曲の解釈から演技に繋げる実習	
7	戯曲への演技アプローチ2			戯曲の解釈から演技に繋げる実習	
8	戯曲への演技アプローチ3			戯曲の解釈から演技に繋げる実習	
9	テスト発表				
10	ドラマのための即興演技1			1人での即興トレーニング	
11	ドラマのための即興演技2			2人組での即興トレーニング	
12	ドラマのための即興演技3			グループでの即興トレーニング	
13	ドラマのための即興演技4			戯曲を使った即興トレーニング	
14	ドラマのための即興演技5			戯曲を使った即興トレーニング	
15	ドラマのための即興演技6			戯曲を使った即興トレーニング	
16	ドラマのための即興演技7			戯曲を使った即興トレーニング	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 役者としての自分と真摯に向き合う姿勢と、演劇に対する好奇心、演技力向上に対するモチベーションを保つこと。	
実務経験教員の経歴		芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴7年			

科目名	滑舌				
担当教員	平辻 朝子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、美しい日本語を話せる力をつける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社 「魅せる声」のつくり方				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	日本語アクセント辞典 滑舌・アクセントについて説明		日本語発音アクセント辞典の使い方確認		
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ		実習		
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ 母音の無声化		実習		
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ 母音の無声化		実習		
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ 鼻濁音		実習		
6	腹式呼吸 声帯ストレッチ 鼻濁音		実習		
7	腹式呼吸 声帯ストレッチ 外郎売		実習。外郎売のアクセント、読み方確認。		
8	腹式呼吸 声帯ストレッチ 外郎売		実習。外郎売練習。復習必須。		
9	テスト		実技テスト		
10	発声 外郎売		実習。外郎売チェック。		
11	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
12	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
13	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
14	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
15	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
16	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
	評価方法・成績評価基準		履修上の注意		
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30%		声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	東京俳優生活協同組合所属 ナレーター・声優				

科目名		滑舌			
担当教員		平辻 朝子		実務授業の有無	○
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、美しい日本語を話せる力をつける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社 「魅せる声」のつくり方				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	発声 滑舌練習			1年次の振り返り。復習練習。	
2	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習			1年次の振り返り。尾高から平板読み練習。	
3	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習			高感度の良い読み方、フラットな読み方の練習。	
4	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習			前回までの復習と再修正。	
5	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域			基礎練習。音域を広げる練習。	
6	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域			基礎練習。音域を広げる練習。	
7	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習			同じ文章で抑揚を変えて練習。ストレートに読む練習。	
8	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習			テスト課題練習。	
9	テスト			実技テスト	
10	基礎練習 滑舌練習			やや長めの滑舌文を正しく読む練習。	
11	基礎練習 滑舌練習			やや長めの滑舌文を正しく早く読む練習。	
12	基礎練習 滑舌練習			やや長めの滑舌文を表現を加えて読む練習。	
13	基礎練習 滑舌長文練習			長めの滑舌文をクリアに読む練習。敬語多めの文章。	
14	基礎練習 滑舌長文練習			長めの滑舌文をクリアに読む練習。無声化確認。	
15	基礎練習 滑舌長文練習			長めの滑舌文をクリアに読む練習。ブレス調節。	
16	基礎練習 滑舌長文練習			長めの滑舌文をクリアに読む練習。テスト課題練習。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。				声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。	
実務経験教員の経歴		東京俳優生活協同組合所属 ナレーター・声優			

科目名		ヴォーカル			
担当教員		緒形 奈美		実務授業の有無	
対象学科		声優アクターズ科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	単位数	—	前期・後期
授業概要、目的、授業の進め方		1. 声の通る道を意識しながら発声する 2. 1音1音に響きをつける 3. たくさんの曲の中から自分に合った曲を選ぶ			
学習目標 (到達目標)		自分のキーに合った選曲ができる。 歌いやすくなる。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		プリント配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	発声、呼吸			基本的な声楽のレッスン	
2	発声、呼吸			基本的な声楽のレッスン	
3	発声、呼吸、声出し			基本的な声楽のレッスン	
4	発声、課題曲の選曲・歌唱			歌唱による指導	
5	発声、課題曲の選曲・歌唱			歌唱による指導	
6	発声、課題曲の選曲・歌唱			歌唱による指導	
7	発声、自由曲の選曲・歌唱			歌唱による指導	
8	発声、自由曲の選曲・歌唱			歌唱による指導	
9	発声、自由曲の選曲・歌唱			歌唱による指導	
10	発声、自由曲の選曲・歌唱、マイクの使い方			歌唱による指導+ステージングの基礎知識	
11	発声、自由曲の選曲・歌唱、マイクの使い方、現場での立ち振る舞い			歌唱による指導+ステージングの基礎知識	
12	発声、自由曲の選曲・歌唱、マイクの使い方、現場での立ち振る舞い、ステージパフォーマンス			歌唱による指導+ステージングの基礎知識	
13	発声、自分に合った1曲を決定			ステージ歌唱の決定および本番に向けての指導	
14	発声、自分に合った1曲を決定			ステージ歌唱の決定および本番に向けての指導	
15	発声、自分に合った1曲を決定			ステージ歌唱の決定および本番に向けての指導	
16	発声、自分に合った1曲を決定			ステージ歌唱の決定および本番に向けての指導	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
試験40%、授業による到達度30%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				歌唱力向上以上にステージ表現を学んで下さい。自主練習は必修です。学んだ基本的発声は毎日行って下さい。	
実務経験教員の経歴		ヴォーカリスト・ヴォーカル指導者			

科目名		ヴォーカル			
担当教員		緒形 奈美		実務授業の有無	
対象学科		声優アクターズ科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 1音1音に響きをつける 2. 自分の声のいいところ、悪いところを知る 3. ステージパフォーマンス			
学習目標 (到達目標)		歌い方、ニュアンスのつけ方の引き出しを増やし、幅を広げる。			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2	発声、呼吸、声出し			基本的な歌唱トレーニング	
3・4	発声、呼吸、声出し、課題曲歌唱1C			基本的な歌唱トレーニング+歌唱指導	
5・6	発声、呼吸、声出し、課題曲歌唱1C			基本的な歌唱トレーニング+歌唱指導	
7・8	発声、呼吸、声出し、課題曲歌唱1C			基本的な歌唱トレーニング+歌唱指導	
9・10	発声、課題曲フル、高音の出し方			歌唱テクニック	
11・12	発声、課題曲フル、高音の出し方、アクセント、リズム			歌唱テクニック	
13・14	発声、課題曲フル、高音の出し方、アクセント、リズム			歌唱テクニック	
15・16	発声、課題曲フル、高音の出し方、アクセント、リズム			歌唱テクニック	
17・18	課題曲仕上げ			前期試験として歌唱発表	
19・20	発声、自由曲の選曲・歌唱			歌唱指導	
21・22	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方			歌唱指導	
23・24	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方、パフォーマンス			歌唱指導+ステージング	
25・26	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方、パフォーマンス			歌唱指導+ステージング	
27・28	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方、パフォーマンス			歌唱指導+ステージング	
29・30	発表ステージ リハーサル			発表本番に向けての準備	
31・32	ステージ発表会			本番	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。				がたフェスイベントにおいて観客の前に歌唱をします。歌唱上達 もそうですが、プロとしての姿勢も学んで下さい。	
実務経験教員の経歴		ヴォーカリスト・ヴォーカル指導者			

②

科目名		ヴォーカル技法			
担当教員	鎌倉 亜子	実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 基本の発声法 2. リズム感、音程の安定 3. 洋楽の発音、発声法				
学習目標 (到達目標)	歌う筋肉の強化、音を聞く耳の強化、コーラス				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	歌詞などプリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1・2	基礎発声（腹式呼吸等）		基本の発声を身に付ける		
3・4	Mixボイス方法		Mixvo.の響きの確認		
5・6	鼻腔の共鳴		ハミングで鼻腔の響きの確認		
7・8	喉の柔軟性		声門の開閉運動		
9・10	高域の拡大		様々フレーズで発音		
11・12	ボイスチェンジ法		胸声区から中声区、頭声区へ変化		
13・14	リズムトレーニング		ハンドクラップで表現		
15・16	音程トレーニング		様々インターバル使用し発声		
17・18	洋楽の発声法		正しい英語発音を身に付ける		
19・20	コーラスの強化		ハモリの耳をきたえる		
21・22	課題曲歌唱 I		合唱曲（課題曲 その1）歌唱チェック		
23・24	課題曲歌唱 I		合唱曲（課題曲 その1）歌唱チェック		
25・26	課題曲歌唱 II		合唱曲（課題曲 その2）歌唱チェック		
27・28	課題曲歌唱 II		合唱曲（課題曲 その2）歌唱チェック		
29・30	課題曲歌唱 III		合唱曲（課題曲 その3）歌唱チェック		
31・32	課題曲歌唱 III		合唱曲（課題曲 その3）歌唱チェック		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験50%、課題曲歌唱評価30%、学習意欲20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			積極的に自主トレーニングを行うこと。 試験用課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は試験までに覚えて下さい。		
実務経験教員の経歴	ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴16年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		ヴォーカル技法			
担当教員	鎌倉 亜子	実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	1	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 基本発声の定着 2. 音域の拡大 3. リズム感、音程、ハモリの耳の強化				
学習目標 (到達目標)	抜力した上で声量上げる、洋楽ゴスペル曲(4声)の完成				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	歌詞などプリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1・2	基礎発声		リップ、タングロールで抜力させる		
3・4	Mixvo.の定着		やわらかい響き作り		
5・6	口・鼻・喉の共鳴		それぞれの違いの確認		
7・8	Middlevo.の強化		閉鎖筋の強化		
9・10	リズムトレーニング&音程		音程発声にリズムを追加		
11・12	ゴスペル4声パート練習		パートごとの安定		
13・14	ゴスペル4声5曲完成		発表の場を設け、達成感を味わう		
15・16	課題曲練習		ゴスペル歌唱チェック		
17・18	課題曲練習		ゴスペル歌唱チェック		
19・20	課題曲歌唱 I		ゴスペル(課題曲 その1)歌唱チェック		
21・22	課題曲歌唱 I		ゴスペル(課題曲 その1)歌唱チェック		
23・24	課題曲歌唱 II		ゴスペル(課題曲 その2)歌唱チェック		
25・26	課題曲歌唱 II		ゴスペル(課題曲 その2)歌唱チェック		
27・28	課題曲歌唱 III		ゴスペル(課題曲 その3)歌唱チェック		
29・30	課題曲歌唱 III		ゴスペル(課題曲 その3)歌唱チェック		
31・32	試験用課題曲レッスン		歌唱チェック		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験50%、課題曲歌唱評価30%、学習意欲20%			積極的に自主トレーニングを行うこと。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			試験用課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は試験までに覚えて下さい。		
実務経験教員の経歴	ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴16年				

科目名		ダンス			
担当教員		KAMO (酒井 俊希)		実務授業の有無	
対象学科		声優アクターズ科		1	
必修・選択		必修		開講時期	
		単位数		前期・後期	
		—		単位時間数	
				16時間	
授業概要、目的、授業の進め方		1. 正しい姿勢、舞台上で動ける身体、体力をつける。 2. リズム感を身につける。 3. テーマを持ち、課題曲の振りをマスターする。			
学習目標 (到達目標)		1. 振付られた課題を練習し、踊ることができる。 2. 個々の表現を入れながら、課題曲を踊ることができる。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		なし			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	ストレッチ			基本的なストレッチ。体の部分を動かし確認。	
2	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング			アイソレーション。首・胸・腰・膝・足首と、上から下へ行う。	
3	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ			アイソレーション。リズムをとりながらステップ。	
4	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ			ステップ、ボディコントロールできるための練習。	
5	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			ビッチが早すぎない課題曲から練習。基本的動きを確認。	
6	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			リズムキープ、体を大きく使えるような振りを加えた練習。	
7	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			グループ練習。動きの確認。	
8	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			グループ練習。動きの確認。	
9	テスト			グループ発表。	
10	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ			前期の復習	
11	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			アップテンポの曲(A)の課題。新しい振り付け。	
12	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			アップテンポの曲(A)振付の続き。	
13	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。	
14	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。	
15	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。	
16	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ			アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				進行状況に合わせて振りも変えていく。身体的リズム感を養うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高めていく予定。	
実務経験教員の経歴		ダンスインストラクター・振付師			

科目名	ダンス				
担当教員	KAMO (酒井 俊希)		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 正しい姿勢で舞台に映える動きを身につける。 2. アイソレーションが正しくできるようにする。 3. リズムキープに表現力がプラスされたダンスができるようにする。				
学習目標 (到達目標)	1. 舞台上で使えるアイソレーションをマスターし、ボディコントロールできるようになる。2. 振り付けられた内容の中で、個々の表現を取り入れながら踊れるようにする。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング		1年次の復習。		
2	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
3	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
4	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
5	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでのフォーメーション練習。		
6	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでのフォーメーション練習。		
7	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。		
8	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。		
9	課題発表		グループ発表。		
10	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング		前期の復習。		
11	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。		
12	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。		
13	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォーメーション練習。		
14	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォーメーション練習。		
15	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。		
16	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。		
	評価方法・成績評価基準		履修上の注意		
	試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。		進行状況に合わせてながら振り付けも変えていく。身体的リズム感を養うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高めていく予定。		
実務経験教員の経歴	ダンスインストラクター・振付師				

科目名		アニソン						
担当教員		石田 耀子		実務授業の有無		○		
対象学科		声優アクターズ科	対象学年		1	開講時期		前期・後期
必修・選択		必修	単位数		一	単位時間数		32時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 声量を上げる 2. やる気みなぎる表情ができる 3. 発声基礎がしっかりできる						
学習目標 (到達目標)		覇気ある人間になる。 人に感じてもらえる歌唱。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		発声CD、カラオケ音源						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1・2	自己紹介、発声基礎、アンケート				ステージ・マイク使用法			
3・4	発声50音、自由曲1コーラスチェック				keyチェック			
5・6	自由曲 1コーラス				人に向かって歌う			
7・8	自由曲 2コーラス				指摘された所が直せる			
9・10	自由曲 フルコーラス まとめ				指摘された所が直せる			
11・12	自由曲 発表				ステージ上で発表形式			
13・14	課題曲① 盛り上がるアニメソング				歌入れ			
15・16	課題曲② 盛り上がるアニメソング				1人ずつ歌唱			
17・18	課題曲③ 盛り上がるアニメソング 発表				ステージ上で発表形式			
19・20	課題曲① 懐かしのアニメソング				歌入れ			
21・22	課題曲② 懐かしのアニメソング				1人ずつ歌唱			
23・24	課題曲③ 懐かしのアニメソング				1人ずつ歌唱			
25・26	課題曲④ 懐かしのアニメソング 発表				ステージ上で発表形式			
27・28	オーディション曲①				オーディション用選曲&歌唱			
29・30	オーディション曲②				1人ずつ歌唱			
31・32	ミニライブ開催（発表会）				ステージ上で発表形式			
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					まずはアニソンの歌い方、発声、スタイルなどを身に付けて下さい。			
実務経験教員の経歴		日本を代表するアニソンシンガー（芸能活動27年）						

科目名	アニソン				
担当教員	石田 耀子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 基礎発声を正確に 2. 自由曲（個性を伸ばす） 3. 課題曲（求められた事ができる）				
学習目標 (到達目標)	自分の声を知り、個性として自信を持って歌える事。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	発声CD、カラオケ音源				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1・2	自己紹介、発声基礎、アンケート		ステージ・マイク使用法		
3・4	発声50音、自由曲1コーラスチェック		滑舌、表現力		
5・6	自由曲 2コーラス		指摘された所が直せる		
7・8	自由曲 2コーラス フルコーラス		指摘された所が直せる		
9・10	自由曲 フルコーラス まとめ		曲構成を考える		
11・12	自由曲 発表		ステージ上で発表形式		
13・14	課題曲① 懐かしのアニメソング		歌入れ		
15・16	課題曲② 懐かしのアニメソング		1人ずつ歌唱		
17・18	課題曲③ 懐かしのアニメソング 発表		ステージ上で発表形式		
19・20	セリフのある曲①		歌入れ		
21・22	セリフのある曲②		1人ずつ歌唱		
23・24	セリフのある曲③		1人ずつ歌唱		
25・26	セリフのある曲④		ステージ上で発表形式		
27・28	オーディション曲①		オーディション用選曲&歌唱		
29・30	オーディション曲②		1人ずつ歌唱		
31・32	ミニライブ開催（発表会）		ステージ上で発表形式		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%		自分なりに努力、成長が見られるか。 勇気と希望を与えられるアニソンが歌えるか。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	日本を代表するアニソンシンガー（芸能活動27年）				

科目名		コミュニケーション検定			
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	×
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 聞く・話すを円滑に行う知識の習得 2. 敬語（丁寧語・謙讓語・尊敬語）を理解する 3. 場に応じた正しい対応力を社会人の仕事の例を使い理解する。				
学習目標 (到達目標)	社会人に向けてのコミュニケーション能力の必要性を理解し、仕事などの場で、人間関係を構築出来る知識を得る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	参考書「サーティファイ主催 コミュニケーション能力検定初級」（問題集含む）				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	コミュニケーションとは？			P2 コミュニケーションの必要性を考える	
2	聞く力			P6～P9 目的に即して聞く	
3	聞く力			P10～P14 傾聴・質問する	
4	話す力			P15～P17 目的を意識する	
5	話す力			P18～P22 話を組み立てる	
6	話す力			P23～P29 言葉を選び抜く	
7	話す力			P30～P35 表現・伝達する	
8	実践基礎1			P36～P39 来客対応	
9	実践基礎2			P40～P43 電話対応	
10	実践基礎3			P44～P48 アポイントメント・訪問・挨拶	
11	実践基礎4			P49～P54 情報共有の重要性	
12	実践基礎5			P55～P59 チーム・コミュニケーション	
13	実践応用1			P60～P65 接客・営業	
14	実践応用2			P66～P71 クレーム対応	
15	実践応用3			P72～P77 会議・取材・ヒヤリング	
16	実践応用4			P78～P83 面接	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				授業では、教科書にない事例も使います。また、特に必要と感じたコミュニケーションの話も交えながら進めて行くことで、より身近なことから必要性を感じながら履修してください。	
実務経験教員の経歴		コミュニケーション検定指導歴16年以上			

科目名		アニソン基礎			
担当教員		石田 耀子		実務授業の有無	
対象学科		声優アクターズ科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	単位数	—	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数
授業概要、目的、授業の進め方		1. アニソンに特化した歌唱指導 2. 歌唱指導のほか、ステージングなども指導 3. 各アニソンイベントへの出演			
学習目標 (到達目標)		アニソンシンガーとしての基礎を徹底的に身に付け、アニソンイベントへの出演やライブの開催などを行えるよう指導する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師作成資料			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1~3	発声①			ベーシックな発声法	
4~6	発声②			アニソンに特化した発声法（アニメキャラクター）	
7~9	発声③			擬音・破裂音などのSE効果的発声法	
10~12	課題曲①			ユニゾンによる課題曲練習	
13~15	課題曲①			ユニゾンによる課題曲練習	
16~18	課題曲①			ユニゾンによる課題曲練習	
19~21	アニソンライブ			ライブハウスにてアニソンライブを開催（課題曲発表）	
22~24	課題曲②			ユニゾンによる課題曲練習	
25~27	課題曲②			ユニゾンによる課題曲練習	
28~30	課題曲②			ユニゾンによる課題曲練習	
31~33	アニソンライブ			ライブハウスにてアニソンライブを開催（課題曲発表）	
34~36	課題曲③			個々に出した課題曲の練習	
37~39	課題曲③			個々に出した課題曲の練習	
40~42	課題曲③			個々に出した課題曲の練習	
43~45	外部イベントへの出演			外部で行うアニソンイベントへの参加	
46~48	外部イベントへの出演			外部で行うアニソンイベントへの参加	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				プロの目指す以上、ステージでアニソンをしっかりと歌える実力を養います！	
実務経験教員の経歴		日本を代表するアニソンシンガー（芸能活動27年）			

科目名		PC&Webリテラシー			
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	
対象学科		声優アクターズ科		1	
必修・選択		必修		—	
授業概要、目的、授業の進め方		1. 情報リテラシーに関する知識 2. パソコンに関する基礎知識 3. アプリケーションに関する基礎知識			
学習目標 (到達目標)		PC, SNSに関する基礎知識 ビジネスソフトを中心に基礎使用方法			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		プリント配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2	情報リテラシー			情報を正しく選択し解釈する	
3・4	情報リテラシー			ネット使用の注意点	
5・6	Twitterについて			セルフプロモーション活用法	
7・8	Instagram			セルフプロモーション活用法	
9・10	Youtube			セルフプロモーション活用法	
11・12	ソフト (Word)			文章作成	
13・14	ソフト (Word)			文章作成	
15・16	ソフト (Excel)			表計算	
17・18	ソフト (Excel)			表計算	
19・20	ソフト (PowerPoint)			プレゼンテーション	
21・22	ソフト (PowerPoint)			プレゼンテーション	
23・24	フリーソフト紹介および使用方法①			画像・動画	
25・26	フリーソフト紹介および使用方法②			画像・動画	
27・28	フリーソフト紹介および使用方法③			画像・動画	
29・30	フリーソフト紹介および使用方法④			音楽・サウンド編集	
31・32	フリーソフト紹介および使用方法⑤			音楽・サウンド編集	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				自身が知っている、使用出来るフリーソフトは授業内で教えて 合って知識・技術を共有しましょう！	
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる			

科目名		PC&Webリテラシー				
担当教員		広川 一義		実務授業の有無		
対象学科		声優アクターズ科	対象学年	2	開講時期	
必修・選択		必修	単位数	1	単位時間数	
授業概要、目的、 授業の進め方		ソフト・アプリケーションを使用した様々な作成実習 1. 画像・動画関係 2. 音楽・音響関係 3. その他 (CAD、イラスト・アニメーションなど)				
学習目標 (到達目標)		様々なソフト・アプリケーションを使用したコンテンツ作成が可能な人材育成				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1~3	画像・イラストソフトについて①			illustrator・photoshop		
4~6	画像・イラストソフトについて②			illustrator・photoshop		
7~9	画像・イラストソフトについて③			illustrator・photoshop		
10~12	画像・イラストソフトについて④			illustrator・photoshop		
13~15	動画ソフトについて①			Final Cut Pro		
16~18	動画ソフトについて②			Final Cut Pro		
19~21	動画ソフトについて③			Final Cut Pro		
22~24	動画ソフトについて④			Final Cut Pro		
25~27	レコーディングソフトについて①			Protools		
28~30	レコーディングソフトについて②			Protools		
31~33	レコーディングソフトについて③			Protools		
34~36	レコーディングソフトについて④			Protools		
37~39	アニメーション制作			フリーソフト活用		
40~42	アニメーション制作			フリーソフト活用		
43~45	アニメーション制作			フリーソフト活用		
46~48	アニメーション制作			フリーソフト活用		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。				自身が知っている、使用出来るフリーソフトは授業内で教えて 合って知識・技術を共有しましょう！		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

科目名	音楽ビジネス				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 音楽業界のしくみやビジネスの考え方を学習する。 2. 音楽業界で働くための基礎知識を育成する。 3. 音楽ビジネスの基本から将来展望まで幅広い知識を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1.音楽業界に基本的な仕組みや役割を理解している。2.音楽コンテンツを制作し、市場へ出す仕組みを理解している。3.音楽をビジネスとしてとらえることが出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント配布など				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	音楽業界の基本的しくみⅠ		プロダクション・レコード会社・音楽出版社の役割		
2	音楽業界の基本的しくみⅡ		ライブ・コンサートについて		
3	音楽業界の基本的しくみⅢ		テレビ・ラジオ・インターネットを使ってのプロモーション展開		
4	CD・DVDについて		レコード会社による音楽コンテンツの制作・宣伝・流通について		
5	アーティスト育成について		プロダクションによるアーティスト宣伝戦略		
6	アーティストグッズについて		コンサート物販におけるビジネス戦略		
7	楽曲（作詞）		60年代からの作詞推移と楽曲別作詞の特性		
8	楽曲（作曲）		90年代より変化した作曲法		
9	楽曲（編曲）		楽曲別アレンジポイントや実力派シンガーからアイドルまでの編曲特徴など。		
10	ファンクラブの役割		顧客管理およびマーケティングによるビジネス展開		
11	アーティストプロデュース 1		マーケティング・メディアへのアプローチ・コンテンツの差別化		
12	アーティストプロデュース 2		何が売れるかを考える（コンテンツ・パフォーマンス）		
13	アーティストに求められていること		センスを視覚化できる・流行を生み出す先見力・ブランドイメージ		
14	育成する力		誰を・誰に・何を・どこで・いつを明確化し、売る要素のあるキャラクター作りを行う。		
15	宣伝プロモート 1		知名度を上げることでブランド力がつく。知るきっかけを作る。		
16	宣伝プロモート 2（存在から特別へ）		競争優位性・ターゲットカスタマーにフォーカスする・出来るだけ5年単位で結果を求める。		
	評価方法・成績評価基準		履修上の注意		
	定期試験40%、レポート40%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。		音楽に関する雑学的要素も多々含まれるが、あくまでもビジネスの授業として受け取って欲しい。音楽は娯楽だが、プロとして必要なことは、それをいかにビジネスに置き換えることが出来るかが能力です。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー				

科目名		音楽ビジネス			
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無	
対象学科		声優アクターズ科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	単位数	1	単位時間数
授業概要、目的、授業の進め方		1. ケーススタディーの中心に音楽業界のビジネス戦略について講義を行う。 2. 音楽業界が実施したビジネス形態の基本を学ぶ。 3. 過去を学び未来展望を身に付ける。			
学習目標 (到達目標)		音楽ビジネスの基本的戦略を理解し、新しいビジネスセンスを身に付ける。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		こんなバンドがプロになれる！(音楽之友社・高垣健)、ヒットのツボ(日経BP出版センター・麻生香太郎)			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	オリジナリティを作る			音楽の差別化・本音を作詞で表現する・ファン作り P14～P24	
2	デビューに向けて			プロデューサーが求める音楽・デビューのポイント・実例で見るデビュープロセス P27～P45	
3	デビュー後の現実			宣伝は雑誌から・プロとアマチュアは別物・クオリティよりスピード P50～P73	
4	スタッフとの関係性			CD制作・マネジementプロダクション・レコード会社・販促スタッフ P77～P111	
5	契約について			契約期間・原盤権・アーティスト印税・奨励金・契約金・著作権印税 P118～P132	
6	オーディション			オーディション審査・各社のケーススタディ(ヤマハ音楽振興会・ビクター・ソニーなど) P142～P155	
7	プロになるための実践的アドバイス			売り込みの基本・デモテープに聞いてもらうには P171～P184	
8	プロデューサーが教える練習ポイント			レパートリーを増やす・リズム練習・ヴォーカルレッスン法 P190～P195	
9	ドリカム400万枚への道			ブレイクポイント・ロンドンテストの起用・FM多局化・キーワードは幸せ P9～P33	
10	プロデューサーの戦略(長戸大幸)			ビーイングの戦略 P36～P49	
11	プロデューサーの戦略(須藤晃)			ソニーレコードの戦略 P50～P60	
12	プロデューサーの戦略(田村充義)			ビクターの戦略 P61～69	
13	プロデューサーの戦略(木崎賢治)			WEAミュージックの戦略 P70～P73	
14	プロデューサーの戦略(小坂洋二)			EPICソニーの戦略 P74～P84	
15	プロデューサーの戦略(渡辺有三)			ポニーキャニオンの戦略 P85～P89	
16	レコード会社の研究			EPICソニーについて P91～P122	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート40%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				配布資料が多くなります。各自でストック出来るフォルダーなどを用意して下さい。また、必要に応じてCD等の貸出を行います。授業終了後に申し出て下さい。	
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー			

科目名	社会人常識マナー検定				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 社会人、組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する。 2. 人として必要な知識やビジネスマナーを修得する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1.社会常識を理解する。2.ビジネス計算力を身につける。3.立居振舞い、言葉遣いなどを身につける。4.ビジネスマナーの基礎を理解する。5.社会人常識マナー検定3級合格を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級 公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定第21回～第28回過去問題集 3級				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会人常識マナー検定試験について 社会と組織1		社会人としての自覚やキャリア、会社組織について。テキストP1～20		
2	社会と組織2		組織と役割、社会変化とその対応。テキストP22～32		
3	仕事と組織		目標の重要性、主体性と組織運営。テキストP34～54		
4	一般常識1		社会常識の基礎用語。漢字など。テキストP56～70		
5	一般常識2		社会常識の基礎用語。用語など。テキストP70～86		
6	ビジネスコミュニケーション 言葉遣い		人間関係とコミュニケーション。敬語と話し方。テキストP102～144		
7	ビジネス文書		ビジネス文書の特徴。社内文書。テキストP146～156		
8	ビジネスマナー		組織の一員としてのマナー。来客応対。テキストP176～196		
9	定期試験		テストと解説。		
10	電話対応		電話対応の重要性。電話の受け方、掛け方の心得。テキストP202～214		
11	交際業務		慶事・弔辞のマナー。テキストP128～238		
12	文書類の受け取りと発送		受発信文書の取り扱い。オフィス環境。テキストP242～249		
13	計算		ビジネスにおける計算。数式。テキストP90～99		
14	日本		都道府県名・県庁所在地・各県の特色など。		
15	検定対策①		過去問題の解説、確認。		
16	検定対策②		過去問題の解説、確認。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			社会人として必要なマナーや知識を修得。検定合格は勿論のこと、社会への意識を高めさせたい。		
実務経験教員の経歴	専門学校教員として20年間、学生の育成に従事。				

科目名	ブランディング&SNSマーケティング				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. SNSを使ったセルフプロモーションの向上 2. ブランド戦略について 3. SNSを使ったマネタイズ出来る人材育成				
学習目標 (到達目標)	自身のブランド力を高め、SNSでより多くの顧客を獲得し、自身でマネタイズを展開する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	iPad・スマートフォンを使用 プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ブランド展開とは		選ばれる戦略		
2	市場リサーチとマーケティング		消費者の中の顧客		
3	宣伝とは		5W1H・AIDMAの法則など		
4	フォロワー数を増やすメリット・デメリット		知名度に伴う誹謗中傷について		
5	Twitter・Instagram①		人気のあるSNSとは		
6	Twitter・Instagram②		フォロワー数をどう増やすか		
7	Twitter・Instagram③		どんな投稿をするべきか		
8	Twitter・Instagram実践		自身でアーティスト名などを設定しSNSを行い、日々、フォロワーを増やす展開を行う。 授業では、どんな投稿が良かったか？反応はどうだったのかをディスカッションしながら、様々な意見やアイデアを出しながら個々がフォロワーを増やすことで、次のマネタイズ展開を行う準備をする。		
9	Twitter・Instagram実践				
10	Twitter・Instagram実践				
11	Twitter・Instagram実践				
12	Twitter・Instagram実践				
13	Twitter・Instagram実践				
14	Twitter・Instagram実践				
15	Twitter・Instagram実践				
16	Twitter・Instagram実践				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			一生懸命であるか、羞恥心がないか		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー				

科目名	ブランディング&SNSマーケティング				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. SNSを使ったセルフプロモーションの向上 2. ブランド戦略について 3. SNSを使ったマネタイズ出来る人材育成				
学習目標 (到達目標)	自身のブランド力を高め、SNSでより多くの顧客を獲得し、自身でマネタイズを展開する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	iPad・スマートフォンを使用 プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Twitter・Instagram・YouTube実践		自身でアーティスト名などを設定しSNSを行い、日々、フォロワーを増やす展開を行う。 授業では、どんな投稿が良かったか？反応はどうだったのかをディスカッションしながら、様々な意見やアイデアを出しながら個々がフォロワーを増やすことで、次のマネタイズ展開を行う準備をする。		
2	Twitter・Instagram・YouTube実践				
3	Twitter・Instagram・YouTube実践				
4	Twitter・Instagram・YouTube実践				
5	Twitter・Instagram・YouTube実践				
6	Twitter・Instagram・YouTube実践				
7	Twitter・Instagram・YouTube実践				
8	Twitter・Instagram・YouTube実践				
9	Twitter・Instagram・YouTube実践				
10	Twitter・Instagram・YouTube実践				
11	Twitter・Instagram・YouTube実践				
12	Twitter・Instagram・YouTube実践				
13	Twitter・Instagram・YouTube実践				
14	Twitter・Instagram・YouTube実践				
15	Twitter・Instagram・YouTube実践				
16	Twitter・Instagram・YouTube実践				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			自分なりに努力、成長が見られるか。 勇気と希望を与えられるアニソンが歌えるか。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー				

科目名		演習			
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無	
対象学科		声優アクターズ科	対象学年		1
必修・選択		必修	単位数		1
			開講時期		前期
			単位時間数		48時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 各学科コースで、それぞれの役割（スタッフと演者）を決めて演習を行う 2. 本番さながらの事柄を様々な経験を模擬体験することを目的とする 3. 協調性・積極的・主体性が無ければ成立しない授業である			
学習目標 (到達目標)		様々な経験をすることで、本番に対応出来る人材育成を目標とする			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		台本など必要物はその都度、配布する			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1~3	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う	
4~6	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分~30分程度の本番を行う	
7~9	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う	
10~12	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分~30分程度の本番を行う	
13~15	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う	
16~18	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分~30分程度の本番を行う	
19~21	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う	
22~24	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分~30分程度の本番を行う	
25~27	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う	
28~30	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分~30分程度の本番を行う	
31~33	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う	
34~36	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分~30分程度の本番を行う	
37~39	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う	
40~42	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分~30分程度の本番を行う	
43~45	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う	
46~48	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分~30分程度の本番を行う	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
主体性・積極性・協調性60%、舞台ステージ・映像作品完成度40%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				舞台・ステージ・映像作品など、あらゆることに積極的かつ協調性を持って履修下さい。	
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー			

科目名		演習			
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無	
対象学科		声優アクターズ科	対象学年		2
必修・選択		必修	単位時間数		48時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 各学科コースで、それぞれの役割（スタッフと演者）を決めて演習を行う 2. 本番さながらの事柄を様々な経験を模擬体験することを目的とする 3. 協調性・積極的・主体性が無ければ成立しない授業である			
学習目標 (到達目標)		様々な経験をすることで、本番に対応出来る人材育成を目標とする			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		台本など必要物はその都度、配布する			
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇		それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
4～6	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）		各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う		
7～9	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇		それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
10～12	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）		各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う		
13～15	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇		それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
16～18	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）		各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う		
19～21	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇		それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
22～24	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）		各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う		
25～27	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇		それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
28～30	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）		各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う		
31～33	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇		それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
34～36	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）		各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う		
37～39	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇		それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
40～42	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）		各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う		
43～45	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇		それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
46～48	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）		各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
主体性・積極性・協調性60%、舞台ステージ完成度40%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			舞台・ステージ・映像作品など、あらゆることに積極的かつ協調性を持って履修下さい。		
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー			

科目名		卒業進級制作			
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無	
対象学科		声優アクターズ科	対象学年		1
必修・選択		必修	単位数		1
			開講時期		後期
			単位時間数		260時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 1年間の集大成になるライブを実施 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施			
学習目標 (到達目標)		前期授業の集大成としてのアニソンライブ公演の準備・練習・公演			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物(台本その他)の配布			
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1~13	企画立案		テーマ・コンセプト・内容・スケジュール作成		
14~27	企画書作成		立案での決定事項をもとに企画書作成		
28~40	ステージ構成および内容		演出的なアイデアの出し合い		
41~53	セットリスト作成		楽曲リスト作成(内容への落とし込み)		
54~66	セットリスト作成(直し)		楽曲リスト作成(内容への落とし込み)		
67~79	歌唱練習		衣装作り・ステージング		
80~92	歌唱練習				
93~105	歌唱練習				
106~118	歌唱練習				
119~131	歌唱練習				
132~144	歌唱練習				
145~157	歌唱練習				
158~170	歌唱練習				
171~183	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習		
184~196	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習		
197~209	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
210~222	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
223~236	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
237~249	ゲネラルプローブ				
250~260	本番		評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			進級評価の対象となります。		
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー			

科目名		卒業進級制作			
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無	
				○	
対象学科		声優アクターズ科	対象学年		2
				開講時期	
				後期	
必修・選択		必修	単位数		1
				単位時間数	
				260時間	
授業概要、目的、授業の進め方		1. 2年間の集大成となるライブを実施 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施			
学習目標 (到達目標)		前期授業の集大成としてのアニソンライブ公演の準備・練習・公演			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物(台本その他)の配布			
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1~13	企画立案		テーマ・コンセプト・内容・スケジュール作成		
14~27	企画書作成		立案での決定事項をもとに企画書作成		
28~40	ステージ構成および内容		演出的なアイデアの出し合い		
41~53	セットリスト作成		楽曲リスト作成(内容への落とし込み)		
54~66	セットリスト作成(直し)		楽曲リスト作成(内容への落とし込み)		
67~79	歌唱練習		衣装作り・ステージング		
80~92	歌唱練習				
93~105	歌唱練習				
106~118	歌唱練習				
119~131	歌唱練習				
132~144	歌唱練習				
145~157	歌唱練習				
158~170	歌唱練習				
171~183	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習		
184~196	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習		
197~209	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
210~222	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
223~236	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
237~249	ゲネラルプローブ				
250~260	本番		評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			卒業評価の対象となります。		
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー			

科目名		楽曲プロデュース			
担当教員		富田 一輝		実務授業の有無	
○					
対象学科		声優アクターズ科	対象学年		2
開講時期		前期・後期			
必修・選択		必修	単位数		1
単位時間数		32時間			
授業概要、目的、授業の進め方		1. 作詞を中心とし、プロデュースについて学ぶ。 2. GarageBandを使用し、自分の声を録音することで客観的に評価する。 3. 自分自身で制作することにより、言葉一つ一つの重みを理解する。			
学習目標 (到達目標)		1.自分の声を録音することができる。 2.テーマに沿った歌詞を書く事が出来る。 3.作品、アーティストのイメージの構築方法が理解出来る。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		適宜プリントにて対応。			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2	オリエンテーション			自己紹介、授業目標の説明、データ共有方法の説明。	
3・4	CMソングについて、ガレージバンドの操作について。			実習（青森リンゴテーマソング制作）。プリント配布。	
5・6	メジャー調ロック			実習（夢についての歌詞制作）。プリント配布。	
7・8	マイナー調ロック			実習（テーマ約束）。プリント配布。	
9・10	王道アニソン			実習（テーマワンピース）。プリント配布。	
11・12	王道バラード			実習（テーマハナミズキ）。プリント配布。	
13・14	コライト（共作）			実習（グループを組んで制作）。プリント配布。	
15・16	前期まとめ			前期の振り返り	
17・18	J POP			実習（テーマ夏の終わり）。プリント配布。	
19・20	K POP			実習（テーマ訳詞）。プリント配布。	
21・22	コミックソング			実習（テーマツイッター）。プリント配布。	
23・24	プロデュース（ミュージックレイン）			実習（テーマTry sail）。プリント配布。	
25・26	プロデュース（ミュージックレイン）			実習（テーマ雨宮天）。プリント配布。	
27・28	プロデュース（ミュージックレイン）			実習（テーマ麻倉もも）。プリント配布。	
29・30	プロデュース（ミュージックレイン）			実習（テーマ夏川椎葉）。プリント配布。	
31・32	メジャー調ロック			実習（同じテーマ夢についての歌詞制作）。プリント配布。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
前期・後期において振り返りレポートの提出60%、学習意欲40%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				オーディションへ提出する仮歌を収録することがあります。課題レポートの提出があります。	
実務経験教員の経歴		作曲家：2019年4月アニメクラッとプリチャンED 作編曲、同4月Kore.ct「スタートボタン」オリコンウィークリー総合5位 他多数			

科目名		アニソンライブ実習			
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. ライブハウスでの歌唱（ステージング能力）向上を目指す。 2. ライブハウスでの音楽活動のノウハウを学ぶ。 3. 歌唱・ステージングだけでなくライブハウスでの運営全般を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	年度末に自ら企画・制作・広報・運営・出演まで、自ら全てを実施出来ること。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料および歌詞ブック				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	音響機材について		マイク、マイクスタンド、PAセットの使い方		
2	ライブハウスについて		柳都オレンジスタジアムにおいてライブハウス運営のノウハウを現場で学ぶ		
3	演出と選曲		30分の枠内で構成パターンについて学習（何を歌い、どんなトークで繋ぎ、どうめるか）。		
4	起承転結		課題曲3曲と2回のフリートークでライブ構成を作ってみる。		
5	ミニライブ 1		自身で選曲した曲2曲とトーク1回の構成でミニライブを実施する。		
6	広報と動員について（紙媒体・電波媒体・ネット媒体）		自身が開催するライブの宣伝方法を講義する。		
7	衣装について		ステージ染える、照明に合う衣装について。		
8	模擬リハーサル		本番同様にリハーサルの指導を行う。		
9	前期終了音楽ライブ実施		実習施設にてライブを開催する。また、ライブの完成度を評価とする。		
10	音楽ライブの企画立案		後期終了音楽ライブの企画立案計画の方法を講義する。		
11	歌唱指導		後期終了音楽ライブで歌唱する楽曲の歌唱指導。		
12	歌唱指導		後期終了音楽ライブで歌唱する楽曲の歌唱指導。		
13	MCトーク指導		後期終了音楽ライブでのフリートーク指導。		
14	台本・セットリストの作成		指導を加えながら台本の作成を行う。		
15	音楽ライブに向けてのリハーサル		リハーサル時に最終チェックを行う。		
16	後期終了音楽ライブ実施		実習施設にてライブを開催する。また、ライブの完成度を評価とする。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
最終審査40%、本番ライブ30%、企画書・台本20%、学習意欲10%			将来、音楽活動を行う上で重要な知識、技術、経験になります。ライブを楽しむことは大切ですが、それ以上にライブのノウハウをしっかりと学んで下さい。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー				

科目名	アニソンライブ実習				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 音楽ライブ活動をビジネスとしてとらえ、より実践的な企画・運営・出演が出来る人材育成を行う。 2. 価値あるライブ活動が行い、セルフプロモーション能力を高める。 3. 実践的に模擬ライブを繰り返す。				
学習目標 (到達目標)	動員目標を明確にし(60名以上)、目標達成できる広報計画を実施し、観客の満足度を上げる演出力を育成する。なお、観客の満足度はアンケートにて評価する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料および歌詞ブック				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1・2	ライブ企画		30分の音楽ライブに関する企画・立案方法を講義する。 ※ 次回までにA4レポート1枚で提出。		
3・4	ライブ企画 修正		提出されたレポートから良い悪いを抽出する。 ※ 次回までに完成した企画書を提出。		
5・6	企画から台本へ		提出された企画書を台本へ落とし込む。		
7・8	リハーサルステージ		台本をもとに、個々の30分音楽ステージを実施する。		
9・10	リハーサルステージ 修正		前回ステージでの改善点を修正し、問題があれば、新たに指摘する(よりクオリティを向上する)。		
11・12	広報・動員について		音楽ライブの広報展開および動員計画について講義を行う。		
13・14	広報・動員コンテンツの作成		フライヤー、ポスター、Web広報のデザイン、情報、公開時期などを講義、ラフ作成を行う。		
15・16	前期終了音楽ライブのリハーサル		内容的クオリティを高めるために進行段取りを確認し、本番で問題がないように確認する。		
17・18	前期終了音楽ライブ 本番		実習施設にてライブを開催する。また、ライブの完成度を評価とする。		
19・20	卒業音楽ライブの企画立案		テーマ・コンセプト・目的・内容・ターゲットの設定と企画書作成の実習		
21・22	広報・動員計画と実施内容		卒業ライブへの広報および動員計画の作成実習		
23・24	技術打合せ		音響・照明との打合せ。それぞれの関係性を講義。		
25・26	卒業音楽ライブ 実施準備		ライブハウスの押さえる(日時確定)、演出や衣装、小道具を揃える。ステージングの練習など		
27・28	リハーサルステージ I		卒業ライブのリハーサルを繰り返し、問題があれば修正、クオリティを高める。		
29・30	リハーサルステージ II		卒業ライブのリハーサルを繰り返し、問題があれば修正、クオリティを高める。		
31・32	後期終了音楽ライブ実施		実習施設にてライブを開催する。また、ライブの完成度を評価とする。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
前期ライブ25%、卒業ライブ35%、企画書20%、学習意欲20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			実習授業であり、教わることより自身で考えて行動することが重要である。また、外部(ライブハウス・音響・照明など)との連携が発生するために、コミュニケーション能力が問われる。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		i-MEDIAゼミ				
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科		声優アクターズ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のように留まらず、実習・演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員と一緒に受講する。				
学習目標 (到達目標)		著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師の事前資料あり				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	スペシャルゲスト講師①			予定講師 声優・アーティスト・映画監督・プロデューサー・お笑い芸人・イベントプロデューサー・歌手・教育関係者・ユーチューバーなど		
3・4	スペシャルゲスト講師②					
5・6	スペシャルゲスト講師③					
7・8	スペシャルゲスト講師④					
9・10	スペシャルゲスト講師⑤					
11・12	スペシャルゲスト講師⑥					
13・14	スペシャルゲスト講師⑦					
15・16	スペシャルゲスト講師⑧					
17・18	スペシャルゲスト講師⑨					
19・20	スペシャルゲスト講師⑩					
21・22	スペシャルゲスト講師⑪					
23・24	スペシャルゲスト講師⑫					
25・26	スペシャルゲスト講師⑬					
27・28	スペシャルゲスト講師⑭					
29・30	スペシャルゲスト講師⑮					
31・32	スペシャルゲスト講師⑯					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
授業態度と出席率で評価する。  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。		
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	i-MEDIAゼミ				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のように留まらず、実習・演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員と一緒に受講する。				
学習目標 (到達目標)	著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講師の事前資料あり				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1・2	スペシャルゲスト講師①		予定講師 声優・アーティスト・映画監督・プロデューサー・お笑い芸人・イベントプロデューサー・歌手・教育関係者・チューバーなど		
3・4	スペシャルゲスト講師②				
5・6	スペシャルゲスト講師③				
7・8	スペシャルゲスト講師④				
9・10	スペシャルゲスト講師⑤				
11・12	スペシャルゲスト講師⑥				
13・14	スペシャルゲスト講師⑦				
15・16	スペシャルゲスト講師⑧				
17・18	スペシャルゲスト講師⑨				
19・20	スペシャルゲスト講師⑩				
21・22	スペシャルゲスト講師⑪				
23・24	スペシャルゲスト講師⑫				
25・26	スペシャルゲスト講師⑬				
27・28	スペシャルゲスト講師⑭				
29・30	スペシャルゲスト講師⑮				
31・32	スペシャルゲスト講師⑯				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
授業態度と出席率で評価する。  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー				

科目名		ビジネス著作権			
担当教員	朝倉 隆司	実務授業の有無	×		
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。				
学習目標 (到達目標)	1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ビジネス著作権検定公式テキスト(ウイネット) ビジネス著作権検定初級問題集(サーティファイ)				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	著作権とは何か	イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的			
2	著作権で保護されるもの	著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例外・特別な著作物 教科書P1～P19			
3	著作権は誰が持つ	著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29			
4	著作権の内容 1	著作権の内容・著作者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持権・一身専属性 教科書P31～P41			
5	著作権の内容 2	財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権、上映権、公衆送信権・貸与権、譲渡権、二次的著作権 教科書P43～P59			
6	著作権は誰が持ついつまで保護される	著作権の時期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69			
7	他人の著作物は勝手に使えない	著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77			
8	勝手に使える場合がある	権利制限規定・私的使用・不随的著作物・教育・図書館・非営利無償の上演・演奏・引用 転載 教科書P83～P101			
9	著作物を伝達する者を保護する制度	著作権継続権(実演家)(レコード製作者)(放送事業者・有線放送事業者)・隣接権保護期間 教科書P117～P129			
10	勝手に使うとどうなるか	著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145			
11	著作権に関する関連制度	知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155			
12	産業財産権とは	特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布			
13	ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは	問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説			
14	著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外	問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説			
15	著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺	問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説			
16	模擬試験(過去問題より重要部分を出題)	答え合わせおよび解説			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。			
実務経験教員の経歴	ビジネス著作権指導歴16年以上 MBAホルダー				



科目名		専攻実習			
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 1年生にとっては初めての歌唱ライブを実施 2. 舞台制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としてのアニソンライブ公演の準備・練習・公演				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物(台本その他)の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1-8	企画立案		テーマ・コンセプト・内容・スケジュール作成		
9-16	企画書作成		立案での決定事項をもとに企画書作成		
17-24	ステージ構成および内容		演出的なアイデアの出し合い		
25-32	セットリスト作成		楽曲リスト作成(内容への落とし込み)		
33-40	セットリスト作成(直し)		楽曲リスト作成(内容への落とし込み)		
41-48	歌唱練習		衣装作り・ステージング		
49-56	歌唱練習				
57-64	歌唱練習				
65-72	歌唱練習				
73-80	歌唱練習				
81-88	歌唱練習				
89-96	歌唱練習				
97-104	歌唱練習				
105-112	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習		
113-128	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習		
129-136	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
137-144	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
145-150	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
151-153	リハーサル撮影		本番さながらのステージを撮影し、映像でチェック		
153-155	リハーサル撮影		本番さながらのステージを撮影し、映像でチェック		
156-160	歌唱・ステージ演出 直し				
161-165	歌唱・ステージ演出 直し				
166-175	ゲネラルブローベ				
176-179	本番		配信ライブ		
180-182	本番時の映像を見て振り返り				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
ライブ評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。			配信での本番になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー				

科目名	専攻実習				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 2年生にとっては上級生として自らの主体性で実施する歌唱ライブ 2. 舞台制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としてのアニソンライブ公演の準備・練習・公演				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物(台本その他)の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1-8	企画立案		テーマ・コンセプト・内容・スケジュール作成		
9-16	企画書作成		立案での決定事項をもとに企画書作成		
17-24	ステージ構成および内容		演出的なアイデアの出し合い		
25-32	セットリスト作成		楽曲リスト作成(内容への落とし込み)		
33-40	セットリスト作成(直し)		楽曲リスト作成(内容への落とし込み)		
41-48	歌唱練習		衣装作り・ステージング		
49-56	歌唱練習				
57-64	歌唱練習				
65-72	歌唱練習				
73-80	歌唱練習				
81-88	歌唱練習				
89-96	歌唱練習				
97-104	歌唱練習				
105-112	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習		
113-128	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習		
129-136	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
137-144	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
145-150	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
151-153	リハーサル撮影		本番さながらのステージを撮影し、映像でチェック		
153-155	リハーサル撮影		本番さながらのステージを撮影し、映像でチェック		
156-160	歌唱・ステージ演出 直し				
161-165	歌唱・ステージ演出 直し				
166-175	ゲネラルブローベ				
176-179	本番		配信ライブ		
180-182	本番時の映像を見て振り返り				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
ライブ評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			配信での本番になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー				